

Q & A 懇談会結果

『まちの将来を語り合う』 市町村合併 地域懇談会を開催

1月22日から30日まで、各団体・地域ごとに「市町村合併」をテーマに懇談会を開催しました。
6日間・13会場に141名の方々が参加され、合併について様々なご意見をいただきました。



市町村合併問題については、これまで広報誌を通じて、その概要や情勢についてお知らせしてきたところですが、富良野圏域の取り組み経過についてお知らせします。

※富良野地区広域市町村圏振興協議会（5市町村で構成、事務局：富良野市）内に、「市町村合併研究会」を昨年10月15日に設置・研究を進め、住民の皆さんに共通の情報を提供するためパンフレットを作成し、広報誌と合わせて各世帯に配布しました。

協議会には、各市町村長が話し合う「委員会」があり、研究会がまとめた研究結果を受け、合併協議会のあり方について話し合いが進められました。

その結果として、圏域5市町村の枠組みによる合併協議を進めることは困難との判断に至っています。（委員会報告）は10ページに掲載）

この内容は、1月27日以降の各新聞紙に掲載され、これを受けての懇談会となりました。

懇談会に寄せられた意見の概要をお知らせします
ので、市町村合併問題や広域行政を含めた、将来の上富良野町のあり方について、引き続き皆さんと考えていきたいと思います。

Q 各年代、各団体から代表が出て話し合い、その中で合併の方向性をまとめてはどうか。

財政的には、合併しても、しなくても厳しい状況にあり、効率的な行財政運営が求められています。皆さんの意見をたくさんいただきながら、合併問題を判断していきたいと考えます。

Q 県同士の合併も考えられている時代であり、市町村合併の検討は必要ではないか。

国は、財政の厳しさから、地方に配分する財源に余力が無くなってきたおり、合併で自治体数を減らしていくよう考えています。道内は合併の動きが鈍く、国としても注目しています。今後、道や町村会から道内に即した自治の形を提言していく予定です。

Q 町財政は、依存財源約80%、交付税約40%という台所事情であり、まず、合併を考えるべきで、その次に広域連合ではないか。町として取り組みが遅いと思う。

富良野圏域で任意合併協議会をつくり、皆さんに具体的な情報を示す予定でした。自立するにしても、地方財政の方向が示されない中で、町財政の将来予測を出しづらい状況です。

Q メリットがあるから、合併がすすめられていると思われる、合併すると行政効率が高くなるのではないか。

「昭和の大合併」と違い、「平成の合併」の背景には、国も含めた財政問題があります。この点から見れば、国側にメリットがあるともいえます。

Q 上富良野町は、観光行政が弱いと思う。多くの観光客は「富良野市上富良野町」と思っている。

合併してもサービスが低下するとは思えないし、今の時点でもサービスは十分と思えない。観光面で将来を考えるのなら、合併したほうが良いのでは。

観光のPR等は広域で推進しています。観光以外にも広域で進められるも

のは、広域で取り組んでいきたいと考えています。広域連合の推進は5市町村で合意されており、一部事務組合以外にも、農協が一つになったことから農業行政等の取り組みも考えられれます。

Q 現在の状況は、合併ありきと受け止められる。地域サービスの低下など、特例法でいう15年我慢できるのであれば自立の道を考えてはどうか。大きい市になれば周辺地域への配慮が行き届かなくなるのではないか。

合併特例法では、合併前の旧自治体ごとに地域審議会を設置し、住民の声が届くよう制度が設けられています。合併ありきではありませんが、合併せずにやれるとも言いません。合併は将来的に中心地への一極集中が懸念され、現在の市町村の行政界があることにより、人口の流出がおさえられていると思います。

Q 中富良野町が協議会に参加しないのは、「富良野市の事業計画に対する」懸念では。また、富良野市の過去の合併からも合併した地域の過疎化は現実。上富良野町は自立して周囲の町村から合併を希望されるくらいのもちづくりをめざすべき。

上富良野町が中心となるか、吸収されるかは重要な問題であり、慎重な判断が必要です。合併後のまちの将来については、現状では予測するしかないと思います。

Q 国が考えている合併は、北海道には当てはまらないと思う。地域的に見れば上富良野から占冠等に年何回も行く人は少ないと思われる、山部地区の衰退も著しい。上富良野町と中富良野町というような、対等の立場で協議できる組み合わせを考えてはどうか。

中富良野町との合併は、将来的にはあるかもしれないが、今の中富良野町は自立をめざしています。今後は、南富良野町・占冠村・富良野市の動向も見極めていく必要があります。

Q 中富良野町が抜けて、可能性としては飛び地での合併もあると思うが現実的とは思えない。自衛隊と共に歩んできた経過や職員の減少、議員の減員など、上富良野町が北の過疎地にならないことを期待したい。

可能性として、飛び地での合併や、美瑛町との合併も可能です。また、町の構成で見れば中富良野町との合併も



考えられると言えます。ただ、現段階では、5市町村の組み合わせは無くなりました。

まちの方向性を示すためにも、多くの町民の声を聞くことが大切と考えています。懇談会の中では合併に積極的な意見は少なかったと思われ、隣接町の状況からは、自立していく可能性が高いといえます。

次ページへ

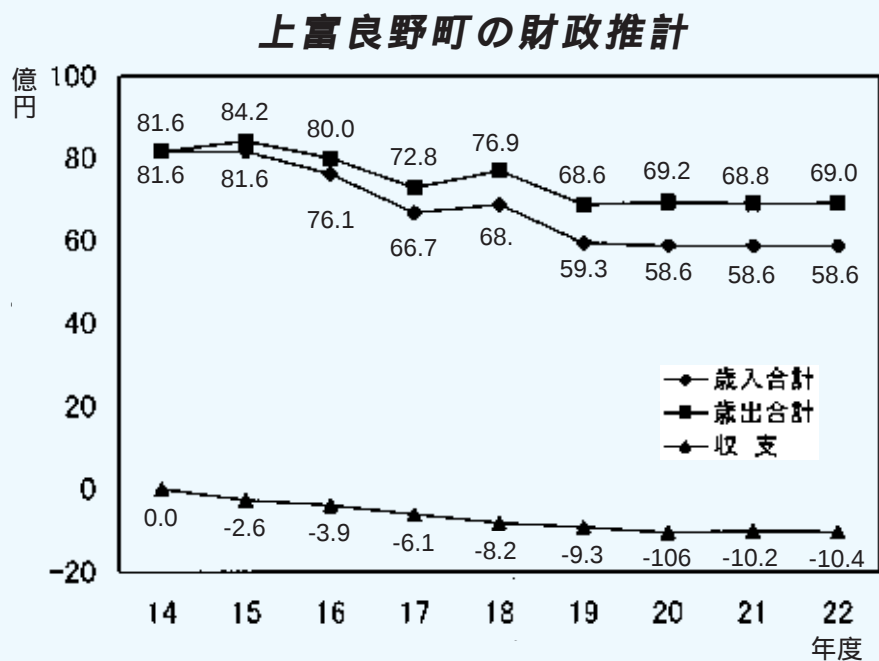
Q 合併は将来の話であり、20代〜30代、中高生の意見を聞くべきでは。中高生の会議を設置したところもあり、若者が合併問題を自分のこととして考えられるように取組みを考えてほしい。

青年層の団体との懇談会も開催してきました。若い人たちに考えてもらうことは重要と認識しています。

住民投票の対象を中学生以上とした自治体もあり、若い年代の意見を聞くことも必要と考えています。

Q 中富良野町が協議会に参加しなかった本当の意思は何か。上富良野町との合併ならよいと思っているようであれば、話し合ってみてはどうか。

中富良野・南富良野・占冠の首長と懇談しましたが、中富良野町は住民懇談会や議会側の反応から、自立を選択しており、その意思を尊重することになりました。この状況下で、中富良野町にこちらから声をかけることは難しいと思います。



● 将来の財政予測 ●

町の歳入（収入）は、平成14年度の81億 6 千万円から、平成22年度には58億 6 千万円まで23億円減少すると推測されます。この要因は、町の歳入の約 4 割を占める地方交付税の減少と投資的な建設事業の縮小による交付金等の減少が大きなものと考えられます。

歳出（支出）については、歳入に関係なく、現在の事務や行政サービスの維持、総合計画の事業の実施をそのまま載せたもので、財政調整のための基金の繰り入れは、考慮していません。

したがって、収支のマイナス分は、各年度の歳出の抑制目標額といえます。
(この数字は、平成14年12月に道の行財政シミュレーションをもとに、役場職員で構成する庁内広域行政等検討会議で試算し、富良野地区広域市町村圏振興協議会の合併研究会に提出したものです。)

この他にも多くのご意見をいただきました。全質疑の記録が役場の町政情報提供コーナーにありますので、ご覧ください。

今後、市町村合併については、国が地方財政の方向をどのように示すのか、地方制度調査会の小規模自治体の位置付けなど、いろいろな情勢を見ながら方向性を探っていくこととなります。

